草の実分校　実践報告

「何かな？何かな？」～ベッドサイドでの数学科の授業より～

【生徒について】中学部２年生（重症心身障がい）の生徒。教員が病室に出向き、すべての授業を行っている。

身体を自分で動かすことはできない。名前を呼ばれたり、オンライン授業で教室のざわめきや好きな音楽が聞こえたりすると口や目を動かすことがある。また、iPad の動画や音声に注目することがある。学習活動は、枕もとの視線を動かすことができる範囲で行っている。学習内容は、「特別支援学校学習指導要領 小学部１段階」に基づいて、目標や題材を設定することが適切である。

【学習指導要領に基づいた目標、題材の設定】

◎学習指導要領より実態に応じた部分を抜粋

［A 数量の基礎］目標　＜知識及び技能＞　ア　身の回りのものに気付き・・

＜思考力、判断力、表現力等＞　イ　数量に関心をもって関わる・・

＜学びに向かう力、人間性等＞　ウ　学習に関心をもって取り組もうとする・・

◎題材設定　「何かな？何かな？」（１～２学期に実施）

＜目標＞		＜評価基準＞
ボールやブロックに気付くことができる。	［知識及び技能］	対象物に気付き、見る。
ボールやブロックに目を向け、動きに注目することができる。	［思考力、判断力、表現力等］	対象物をじっと見続けたり、動く様子を目で追ったりする。
ボールやブロックに関心をもって学習することができる。	［学びに向かう力、人間性等］	対象物を見て表情を変化させる。

◎授業の様子　・１限（５０分）の授業は、他の教科と組み合わせて１５～２０分程度のユニットで実施。

・体調に配慮し、反応を見ながら、毎時間１～５の活動をいくつか組み合わせて、１～２学期の間スパイラルで繰り返す。

１　対象物を身体（掌や顔、首等）に当てる。［触覚］

声掛けをしながら、顔や首、掌等にボールやブロックを当てて転がしたり圧をかけたりする。毎時間繰り返すと、ボールやブロックが触れると目を開けるようになった。

さらに、ボールが身体に当たると、その場所を見ようと視線を動かす様子が見られるようになった。

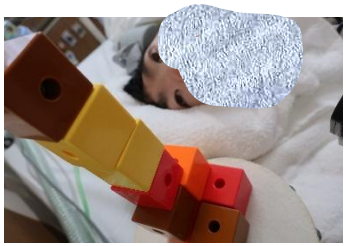
２ 対象物を身体に当ててから、見える位置に置く。［触覚＋視覚］

ボールやブロックを身体に当てた後、視界に入れると目を大きく開けて見ようとした。

３ ボールを視界の範囲で転がす。転がると音が鳴るようにする。［視覚＋聴覚］

透明トレーに、オレンジ色のピンポン玉を音が出るように落として転がすと、じっとピンポン玉の動きを見ていた。また、ボールを透明の筒の中や木製のレールの上をゆっくり転がし、落ちると音が出るようにするとボールの動きに注目して視線を動かしていた。

４ ブロックをゆっくりと音がするように積んだり崩したりする。［視覚＋聴覚］



ブロックを１つずつゆっくりと見せながら、カチッと音がするように積んでいくと、動かすブロックを目で追い、積みあがったブロックに注目することができた。さらにそれを「３，２，１」の声掛けで崩すことを繰り返すと、崩れるのを期待するような表情をしたり、崩れてしまうと目を閉じていったりすることがあった。

３学期末に約３か月振りに復習としてブロックの積み崩しをした。積み始めると大きく目を開けて、崩れるまで注目することができた。

５ 自分でボールを転がしたりブロックを崩したりする。［視覚＋触覚＋聴覚］

教員と一緒にボールを転がしたりブロックを崩したりすると口や目を動かす等して表情を変化させることがあった。

<u>授業を終えて</u>

数学科の教科としての目標を明確にして、継続して授業を実施してきたことで、ボールやブロックを対象物として捉えるようになってきた。それと同時に他の教科学習でも、提示したものを見ようとしたり動きを目で追ったりする場面が増えてきたと感じられる。評価については、指導者の主観にならないように本生徒の表出する変化を客観的に評価するよう心掛けた。今後も引き続き特別支援学校指導要領小学部１段階に基づいた授業展開になるが、同じ段階の中でも少しずつステップアップできるように新たな題材や活動を工夫していくことが必要である。